

花畑再開発事業～ゆきづまり「断念」

見通しのない再開発を追求してきた市の責任は重大

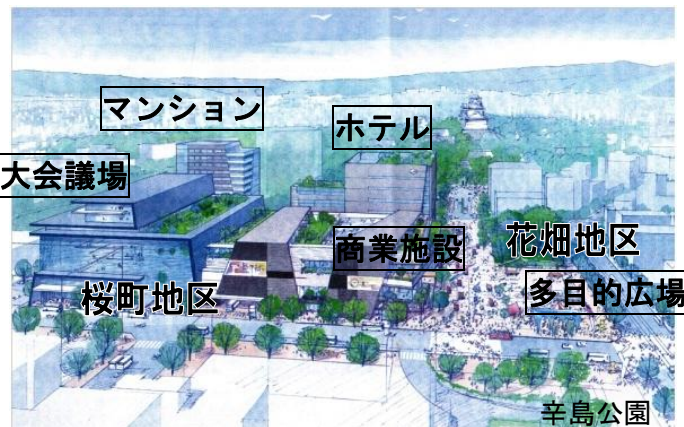
11月27日、市議会全員協議会が開かれ、幸山市長は中心街の花畑地区で進めてきた再開発ビル建設を断念し、公園などの多目的広場を整備することを明らかにしました。また、産業文化会館のホール機能については、桜町再開発計画に盛り込むほか、市民会館など既存施設により機能分担を図っています。

産文閉鎖から3年8カ月。見通しのない再開発を追求し、ゆきづまると、産文を解体し公園にするという幸山市長。再開発を推進した自らの責任にも言及せず、また花畑地区の再開発計画がなぜ破たんしたのかの具体的な総括もないまま、今度は桜町地区（交通センターや県民百貨店がある地区）の再開発に多額の税金を投入するというのはあまりにも無責任です。

総事業費500億円～3000人収容のホールを含む再開発は見直しを！

花畑地区の再開発が破たんする一方で、交通センターのある桜町地区では、国際会議場やコンサートホール、マンション、ホテル、商業施設などが入る桜町再開発計画が進められようとしています。総事業費500億円。民間の進める再開発計画に対し、市は国際会議場やホールの床取得に多額の税金を支出することになります。

市民の暮らしは大変です。市



民合意のない再開発計画は見直し、暮らし・福祉の充実こそ求められます。

※ 裏面に共産党としてのこれまでの取り組みや今回の計画の問題点などを特集しています。

日本共産党 市議会だより

発行：日本共産党熊本市議団

ますだ牧子 上野みえこ なすまどか

熊本市中央区手取本町1-1 議会棟 ホーム：<http://www.jcp-kumamoto.com/>

NO. 828

2012年12月2日

電話 328-2656

FAX 359-5047

メール：kumamsu@gamma.ocn.ne.jp

12月議会・上野みえこ議員が一般質問を行います

12月6日(木)午後2時より、議会棟5階・本会議場

<質問内容>

■住民のいのち・暮らしを守る課題

介護保険、雇用問題、住宅リフォーム助成や公契約条例

■子どもの健やかな成長を願う課題

少人数学級、高学費問題と奨学金、就学援助、学校の冷暖房

■花畑再開発破たんと産業文化会館問題、桜町再開発とコンベンション施設整備

■白川の治水と立野ダム問題 被災者への支援策 ほか

*どなたでも傍聴できますので、ぜひおいでください。

*インターネットでの同時中継もあります。(その後は、録画放映となります)



【控室から】

長寿を喜べる社会を！ 益田牧子

熊本県後期高齢者医療広域連合議員に小林久美子菊陽町議と共に、無投票で当選することができました。県下の党市議の皆さんの奮闘で55名の推薦者を確保できたことが当選の大きな力になりました。健診無料化や肺炎球菌ワクチン接種の実現、保険料の引き下げ等、改善を進め、年齢差別する後期高齢者医療制度廃止に向けて力を尽くします。

先日、妹家族が帰郷し、父の米寿の祝いをしました。孫からのセーターや手袋のプレゼントに、目を細め、喜んでいました。父は、5年前までは、家庭菜園で野菜を作り、産直の店に車で出荷し、暮らしの足しにしていました。今では、足も弱り、車も手放し、週3回のデイサービスが日課となりました。夫婦合わせて約10万円の年金から、介護保険料、後期高齢者医療保険料が引かれ、子どもたちの支援なしでは、安心してデイサービスにも通えません。両親を含め、多くの高齢者の願いは、「老後を安心して過ごせる年金支給」など長寿を喜べる社会の実現ではないでしょうか。衆議院選挙では、消費税増税と解散のどさくさに紛れ、年金引き下げを強行した「民・自・公」に審判を下しましょう。

壊すのはもったいない！産業文化会館は市民の財産です

原点に戻り、産業文化会館をリニューアルし、再開を！

市民不在の産文会館廃止決定

産業文化会館は、2007年（H19）からリニューアルの改修工事が計画されていました。ところが、熊本市は、08年（H20）民間事業者の花畑再開発への参加を決定。市は、改修工事を取りやめ、27年間しか使われていない産業文化会館の廃止に、方向転換しました。08年3月には、ホール利用を早々取りやめ、入居事業者を追い出し、09年（H21）年3月議会には、産業文化会館の廃止条例を提案しました。

この間、幸山市長は、市民・利用者の声を聞かず、一部民間事業者だけの声を聞き、「熟度の低い事業計画」を推進してきました。

民間事業者による花畑再開発計画は、完全に破たんしました。この間、産文会館の年間約30万人の利用者がなくなり、周辺の通行量は激減しました。一方では、市民の血税は、約3億8千万円も投入されました。ずさんな再開発事業を強引に進めた幸山市長の責任は重大です。

産文会館取壊しに約5億円？

反省することなく、幸山市長は、産業文化会館を取り壊し、隣接する民間用地を買収し、公園化する計画を発表しました。産文会館の取り壊しだけでも、約5億円かかります。今やるべきは、原点に戻り、産業文化会館をリニューアルし、再開することではないでしょうか。

破たんした花畑再開発の経緯

- 06年（H18）12月：民間団体から幸山市長に花畑再開発事業推進の陳情
- 08年（H20）3月：熊本市が民間再開発に参加（A街区）
 - 6月：計画対象区域の拡大（B街区）
 - 11月：NHKがオブザーバー参加
民間事業協力者の公募
- 09年（H21）3月：事業協力者と協定書締結
 - 3月：産文会館廃止条例可決
 - 4月： " 閉館
- 10年（H22）2月：施設配置案プレス発表
 - 3月：基本設計者の公募
- 12年（H24）6月：B街区にNHKが単独移転決定
 - 11月：花畑再開発事業を断念

日本共産党は繰り返し、「花畑再開発問題」を追及

産業文化会館廃止を前提とした花畑再開発問題は、市議会では、当初、慎重意見が相次いで出されました。市民からも、産業文化会館の存続を求める陳情や監査請求が出されました。しかし、幸山市長は、市民や議会の声にも耳を貸さず、強引に、花畑再開発計画を推進してきました。

市議会は、「産業文化会館廃止条例」やムダとなった設計予算等にも、日本共産党を除く、全会派が賛成してきました。日本共産党は、一般質問、質疑等で、花畑再開発の問題点を正し、産業文化会館廃止に反対し、市民の意見を聞き、リニューアルし、再開するよう求めてきました。

「花畑再開発計画」約3億8千万円のムダ遣い

熊本市は、07年（H19）、9000万円の予算で産業文化会館を含めたA街区の基本設計を実施。09年（H21）には、約1500万円の予算で計画用地の建物・地盤調査を実施。10年（H22）には、3億円を超す当初予算を計上し、A・B街区の基本設計・実施設計等を計画。しかし、再開発ビルの入居者が決まらず、市負担分2億円は、不用額へ。これまでの約1億1千万円の再開発計画予算はドブに捨てたも同然です。その他、ずさんな計画のまま、産文会館廃止を決め、入居者を無理やり追出した移転費用は約2億6千万円。約4億円近いムダづかいをした幸山市長の責任は重大です。